

# 低炭素ワーキンググループの進捗と 持続可能性計画に関する私見

藤野純一

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

低炭素ワーキンググループ 座長

(地球環境戦略研究機関／国立環境研究所)

公開ブリーフィング

2020 SDGs 東京五輪「持続可能性運営計画第2版」に向けて、  
企業との情報共有、2017年9月14日、東京

# 持続可能性計画第2版と低炭素WG

- 2018年3月末までに策定予定。
- そのためには秋にドラフトを作成しパブコメする必要がある。
- 低炭素WGはCO<sub>2</sub>排出量の算定（カーボンフットプリント）、ISO20121等の国際水準を見据えたCO<sub>2</sub>削減体制・システム（カーボンマネジメント）、排出ゼロを目指した削減策（カーボンオフセットを含む）の検討を進めている。

# カーボンの・サステナビリティ的 東京大会の立ち位置

- 2012年ロンドン大会：大会のサステナビリティシステムISO20121確立、大会排出CO<sub>2</sub>約350万トン。
- 2016年リオ大会：サステナビリティの意識徹底。計画段階約360万トン、観客増えて約450万トン。
- 2020年東京大会：パリ協定発効年の大会。脱炭素に向けてカーボン（・サステナビリティ）マネジメントシステムの提案・実施、算定中。
- 2024年パリ大会：パリ協定採択の場。すでにISO20121に準拠した大会準備の開始。
- 2028年カリフォルニア大会：2018年9月に気候変動に関するnon-state actorsの世界大会開催予定。

# CO<sub>2</sub>削減の5段階ステップ

1. 大会の運営自体の工夫：効率化できるとCO<sub>2</sub>も減る
2. 設計の工夫・施設運用の工夫：光や風など自然のエネルギーを上手に取り込むデザイン
3. 機器の高効率化：必要なエネルギーサービス量を少ないエネルギー投入で対応
4. 低・脱炭素エネルギーの利用：再エネなどCO<sub>2</sub>原単位の小さいエネルギーで
5. 出してしまうCO<sub>2</sub>のオフセット（相殺）：その際検証可能で、目的に適ったものを選択

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



脱炭素をSDGsの視点から見ると

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



みんなで大会のCO2排出をゼロに、サステナブルにするには、みんなの得意なところを伸ばしながら参加する仕組みが必要！

Sustainable  
Olympic & Paralympic

「東京大会は、競技も  
おもてなしもよかったけど、  
『サステナビリティって  
こういうことなんだ！』  
っているんな場面で  
触れて、実感できて、  
ほんと来てよかった！」  
って言われる大会に  
なったらいいな。

みんなでそうしましょう！



藤野 純一

Junichi FUJINO



jfuji55@gmail.com